

東静岡駅周辺地区における駅南口県有地活用方策の研究

静岡県立大学経営情報学部八木研究室

指導教員：八木 健祥

参加学生：村山春緋、大石麟太郎、本間南帆、

杉浦麻衣、石垣匠海、有田伊歩希

1 要約

- 本研究は、JR 東静岡駅南口に隣接した県有地(現在はグランシップ駐車場として利用)について、令和9年度中に県立中央図書館が同所に移転されることを機に、新図書館以外の県有地スペースの有効活用に関し、静岡県スポーツ・文化観光部企画政策課と共同で研究しているものである。
- 2022年11月に賑わい創出に向けた実証実験(来場者約5,000名)を行い、同実験における大学研究紹介や部活・サークル活動目当てに若年層が来場し、若年層による賑わい創出の目的は達成されたと考えている。
- こうした中で、来場者アンケート結果からは新図書館の建設・移転や東静岡に関する県民、市民の認知度の低さが判明したこと、高校生やその保護者を中心に大学紹介等のイベント継続を求める声が聞かれていること等から、来年度以降も本研究事業を継続して行っていきたいと考えている。

2 研究の目的

- JR 東静岡駅南口に隣接した県有地について、令和9年度中に県立中央図書館が同所に移転されることが決まり、新図書館隣接の県有地の有効活用に関し、静岡県スポーツ・文化観光部企画政策課と共同で研究を行った。

3 研究の内容

- 同駅利用者には周辺大学・高校への通学者が一定数いることから、県では「若年層を主体とした賑わい創出」をテーマとし、賑わい創出と東静岡地区の認知度向上を目的に若年層誘客に向けた実証実験を企画し、その企画、運営に本研究室の学生が主体的に参画した。
- 具体的には、2022年11月3日にグランシップ芝生広場で実証実験を開催することとし、本学および常葉大学との連携による大学研究室紹介(研究内容に関する展示説明)、両大学の部活・サークル活動(音楽、ダンス等)発表を行った。これに先立ち、学生は当日参加する大学の研究室、部活・サークルとの出展内容調整、イベント告知に関するポスター、チラシ作成、同ポスター等の同駅周辺小売店舗、駅構内への掲示を行ったほか、当日会場で行う対面アンケート調査の事前予備調査として静岡県中部地区住民を対象とした

Web アンケートを実施し(有効回答者数 564 件)、取り纏めた。

4 研究の成果

(1) 当初計画

○ 上記 3 のとおり同駅利用者には周辺大学・高校への通学者が一定数いることから、県では「若年層を主体とした賑わい創出」をテーマとし、賑わい創出と東静岡地区の認知度向上を目的に若年層誘客に向けた実証実験を計画した。内容は大学研究室紹介、部活・サークル活動紹介、来場者への対面アンケート調査活動を計画の骨子とした。

(2) 実際の内容

○ 当初計画に加え、SBS 静岡放送と連携し、SBS ラジオの公開生放送を現地で行った。また、静岡県内商業高校 3 校(伊東商業、清水桜が丘、浜松商業)と連携し、同高校が地元企業と共同開発した商品を販売することで、高校と地元企業との共同研究をアピールする場としても活用した。この間、来場者への食事機会として県内の飲食店 10 店舗に出店して頂いた。

(3) 実績・成果と課題

○ 学生による積極的な活動の成果として、実証実験当日は約 5,000 名の来場者があり、賑わい創出に向けた会場内での来場者アンケートも 195 件(有効回答者数ベース)の回答を得ることができた。アンケート回答における本イベントの評価をみると、高校生からは「両大学の研究活動を同時に見学できる機会は非常にありがたい」とか、「コロナ禍で対面形式でのオープンキャンパスが開催されていない中での今回のイベントは大学を知る貴重な機会だった」との感想があったほか、保護者からも「部活・サークル活動も含め両大学の学生生活の一端を垣間見ることができ、進学を検討するうえで貴重な情報収集機会だった」との反応があり、「来年度以降も同様の趣旨のイベントを継続的に開催して欲しい」との意見が多数寄せられた。

○ この間、アンケート結果からは、新県立中央図書館の県有地への移転を含め、東静岡駅南口の県有地の存在を知らない県民、市民が多数存在していることが判明、県民、市民向けの積極的な情報発信による、県民、市民のニーズを踏まえた有効活用策の検討の必要性を改めて認識し、県に提言した。

(4) 今後の改善点や対策

○ 上記 4(3)のとおり、新図書館の移転開館、および県有地の有効活用に関する県民、静岡市民の認知度が低いことが判明した。これを踏まえて、認知度向上を目指して実証実験を継続的に行うとともに、実験時来場者へのアンケート調査を通じてニーズの正確な把握に努めたいと考えている。

- 大学研究紹介については来場した高校生から好評であったので、本学、常葉大学に加え、他の静岡市内大学、さらには静岡県内大学にも出店を促し、高校生に静岡県内大学を同時に比較検討する機会を設置できれば、高校生の県内大学への進学率向上のきっかけとなり、大学進学による若年層の県外流出の回避にも繋がると考える。
- このため、本学と県スポーツ・文化観光部企画政策課との共同研究を来年度も実施し、あわせて県の方で来年度のゼミ学生等地域貢献推進事業助成対象研究を募集することになれば、本研究室がエントリーしたいと考えている。

5 課題提出者・地域への提言

- 上記4(4)のとおり。

6 課題提出者・地域からの評価

(評価者) 静岡県スポーツ・文化観光部企画政策課長 大石昌宏 様

- 本研究室の学生目線のアイデアに基づく企画、運営により約5,000名の来場者があり、東静岡地区の認知度向上に大きく貢献した。あわせて、来場者アンケート195件と、事前のWeb調査564件により、県の想定以上に図書館移転や東静岡地区に関する県民、市民の認知度が低いことが判明し、驚きと共に正確な実態が確認でき、本研究の大きな成果である。可能であれば来年度以降も本スキームを活用した実証実験を継続して行っていくことで認知度向上を図っていきたいと考えている。

以 上